

令和3年度 ともの家 事業計画

はじめに

令和3年2月、障害者総合支援法における、3年に一度の報酬改定の内容が開示されました。社会福祉の基礎財源が変わらないことが大前提なので、プラスがあれば、どこかで必ずマイナスになる仕組みに、一喜一憂しながら、予算を作成しました。収益を上げるためには、利用者を増やすしか方法がないので、就労系の事業所では、障害のある人たちを取り合うという、異常な事態が起っています。国の目指している障害者の就労は、働くことに特化させ、そこは市場原理の下で民間企業が担う方向です。働くことも含めた生きることの寄り添う事業所の姿ではありませんから、働くことが辛くなった障害者は、きっと福祉的な働く場が必要となります。共同作業所として発足した「ともの家」の存在意義は、共に働き、困ったときに頼れる、そして、そこが人として大切にされる場所であり続けることです。令和3年度も以下の項目を重点課題として進めていきます。

4月1日に新しい仲間を迎えます。中央特別支援学校卒業の18歳のさわやかな男性です。

困難なこともあると思いますが、働くことで社会とつながり、共に成長していきたいと思えます。

また、彼に医療的な行為が必要なこともあり、週2回勤務だった看護師さんの勤務を、週5日に増やしました。他の仲間、職員にとっても、看護師が常駐していることは心強いことで、とてもタイミングが良かったです。

1. 職員のレベルの向上

個々の視野を広げるための自己研修と、仲間への対応スキルを向上させるための外部研修を行います。

年末には、研修報告会を開催し、研修で得た知識を報告する機会を設けます。

個々の役割を見直し明確化します。特に生活介護事業の体制については、次年度大幅に変更する予定を組んでいますので、個々の職員の意識改革が必要です。

R4年度の体制変更に向けた、準備の年とします。

2. 地域発信

船越まつりの出店とステージ発表

お店のマルシェ開催

映画会の開催

社協の地域生活支援事業への協力

3. 防災対策（詳細は各部署で作成）

仲間のための初動訓練を継続して行います。

職員のために事業継続の訓練を行います。

感染症予防のためのBCPの強化と職員への実施練習を行います。

4. 仲間の将来に向けて

仲間と保護者の高齢化の問題と共に、成人した大人の暮らしを目指すために、グループホームを2か所設置してきました。今後も、増設を進めてきたいと思

土地は購入しましたが、財政面と人材不足を理由に、現時点では断念せざるを得ないことを令和2年度末に報告させて頂きました。

親も子も高齢化が進む中で、過去3年間に、何の準備もなく、親が高齢のため、施設に入居した例が3例あり、その時の仲間の混乱ぶりを目の当たりにしてきました。仲間の混乱を受け止め、意思を尊重しながら、自己実現を後押しする「計画相談支援事業」が障がい者福祉サービスに位置付けられており、この3名も、相談支援を受けながら、混乱を最小限に留め、現在は比較的落ち着いて生活しています。現在は他事業所をお願いしていますが、人材とそのスキルがあれば事業を開設可能な「計画相談支援事業所」を立ち上げることで、多くの障がいのある仲間たちの支援に役に立つことが出来ればと思い、具体的に検討を進めていきます。

5. 事業全般

1年では成し遂げることが難しいことが多いため、2年を一区切りに体制を整える方向で計画を作成しており、今年度は2年目の年になります。

基本である職員体制を大きく変更せず、令和2年度の総括を今年度につなげることを方針として掲げます。

〈生活介護事業〉

1. 昨年にも増して、仲間の高齢化・障害の重度化が進んでいくことが想定され、働くことより、余暇や身体づくりに時間を割くことが必要になっている仲間が増えています。

一方まだまだ、仕事に力を注ぎたい仲間もいます。

健康に留意しながら、個々の想いや願いに沿った形で日中作業・活動を進めていきます。

2. 新たに新卒の若い仲間が加わります。本人にとっては、緊張の1年になると思いますが未経験な場面に躊躇することも多いとは思いますが、みんなでサポートしていきます。

仲間の加入が、諸先輩方の良い刺激になるように、双方を支援してきます。

3. 個々の職員の価値観で支援を行わないように、支援計画を柱に、共通認識をもって、仲間のニーズを捉えます。小手先の支援ではなく、将来を見据えた関りを大切にします。

〈就労継続B事業〉

1. 働くことがメインの場所だからこそ、働くことが生きがいに繋がる支援を心掛けます。

2. 個々の職員の価値観で支援を行わないよう、支援計画を柱に、共通認識をもって、仲間のニーズを捉えます。

〈グループホーム〉

1. 仲間にとって、ホッとできる居心地の良い場所として継続してきます。

2. 仲間や家族の状況に合わせて、通院等に対応します。

3. 職員同士の連絡を密にとり、仲間に関りごとが生じないように、また、個々の職員の価値観で支援を行わないよう、支援計画を柱に、共通認識をもって、仲間のニーズを捉えます。